

統合国際深海掘削計画 (IODP) 会議報告書

提出年月日： 平成 年 月 日

(ふりがな)

氏名：布浦 拓郎

所属(職名)： 独立行政法人海洋研究開発機構・極限環境生物圏研究センター・研究員

会議名	Scientific Technology Panel (STP)会議
会議期間	平成 20 年 2 月 18 日-2 月 20 日
用務地(国・都市)	仙台市
<u>目的</u> STP 会議への参加	
<u>会議内容及び報告事項</u> 日本からの出席者 (STP 委員) 鈴木 紀毅(東北大学)、石橋純一郎(九州大学:池原委員代理)、成瀬 元(千葉大学)、布浦 拓郎(海洋研究開発機構)、林 為人(海洋研究開発機構) (リエゾン) Jim Mori(京都大学)、川村 裕 (IODP-MI)、江口 暢久 (CDEX)、林 一宏(マリンワークジャパン)、Lallan Prasad Gupta (高知コア研究所)、諸野 祐樹(高知コア研究所)、吉岡 由紀 (AESTO)、増田 由衣 (AESTO) 【会議内容】 事前に配布されたアジェンダに従い議事が進行し、全体での議論の他、頻繁に分科会での議論を行った。退任委員及び開催地ホストへの感謝を含む)、以下の Recommendation、Consensus、Action item を決議した。以下に決議とその概要を列記する。 STP Consensus Statement 0802-01: Implementation of IODP-MI QA/QC TF Report IODP MI より提示された QA/QC 案についての要望、改善項目を示した。 STP Consensus Statement 0802-02: IODP Document Addendum IODP-MI に対し、現在の Measurements Document に、掘削の判断に影響を与える項目を示す附則を添付するよう要望した。 STP Consensus Statement 0802-03: Patent Issue IODP に伴い生じる知的権利について検討するよう、IODP-MI へ要望した。 STP Recommendation 0802-04: Legacy Sample Center at Kochi 高知コア研究所より提示された液体窒素中での微生物・地球化学試料の保存の試みについて、IODP-MI が Microbiology Task Force に対し、Legacy Sampling 保存に相当するかどうかの諮問を求めよう要望した。 STP Consensus Statement 0802-05: Specific Proposals Related to QA/QC for Microbiology QA/QC における Biomass counting について、特にコア試料中の Biomass counting に用いる蛍光試薬の種類、レグ中の計数基準の統一、蛍光画像の保存について上申した。 STP Consensus Statement 0802-06: Detection and Control of Contamination Issues During Riser Drilling ちきゅうでのライザー掘削において予想される、循環泥に起因する地球化学・微生物学研究における試料汚染の対策について上申した。また、それらのリスクを軽減する循環泥の開発について EDP に検討を行うよう要望した。 STP Recommendation 0802-07: IODP-MI Subsurface Life Task Force Recommendations IODP MI に対し、Microbiology Task Force 報告書についての、提言、質問等を列挙し、それらに対する回答を STP へ示すよう要望した。	

STP Consensus Statement 0802-08: Core-Log Seismic Integration

各 IO に対し、Core-Log Seismic Integration に関する要望を示し、回答を求めた。

STP Recommendation 0802-09: Virtual Core Repository at Kochi Core Center (KCC)

高知コア研究所に対し、3D core image と坑内計測データとを将来的に関係づけることが出来るのかどうかについて報告するよう求めた。

STP Consensus Statement 0802-10: Lithologic Description Reference Collections

全ての掘削プラットフォームにおいて、層序同定に関わる標準試料を備えるよう要望した。

STP Consensus Statement 0802-11: Acceleration of Paleontology Coordination Group

IODP MI に対し、Paleontology Coordination Group と経常的な連携を行い、Taxonomic Digital Dictionary 構築を進めるよう要望した。

STP Consensus Statement 0802-12: IODP Drilling Proposal Review Form

SSEP に対し、STP の貢献が必要なプロポーザルを IODP Drilling Proposal Review について STP に回覧し、コメントできる Review Form に改めるよう要請した。

STP Consensus Statement 0802-13: Open Hole VSP

Open hole VSP を pre-expedition 計画段階に導入するよう要請した。

STP Consensus Statement 0802-14: Vp Measurements on Core Samples at High Pressure

この案件を終了とし、CDEX に対し、設備導入後の Vp 測定の概要を STP に示すよう要請した。

STP Consensus Statement 0802-15: New Down-hole Magnetic Susceptibility Tool (MSS)

IODP-MI に対し、LEDO (Borehole logging group) により開発された MSS について、IODP 航海での導入を進言した。

STP Recommendation 0802-16: Curatorial Advisory Board (CAB)

鈴木紀毅委員を CAB に推薦することを決めた

STP Consensus Statement 0802-17: Oriented Cores

各 IO に対し、全てのデータを定方位に補正した状態でデータベースから取り出せるよう要請した。

STP Action Item 0802-18: Scientific Technology Road Map

今後の IODP 展開に要求される技術開発目標を、次回 STP の2週間前までに、各 Working Group 毎にまとめることを決めた

STP Consensus: 退任する鈴木委員 Ge 委員へ、また今回のホストを務めた鈴木、井龍、吉岡、増田の各氏に対して感謝の意を示した。

次回会議の開催

ESO がホストとなることが確定し、7月中頃から下旬 (7/14-16あるいは7/28-30が最有力) で調整することになった。8月上旬あるいは9月上旬に開催される可能性もある。ホストはカナダ開催であれば Doug Schmitt、ヨーロッパ開催の場合は未定である。